

NPO法人日本もったいない食品センターが運営する
食品ロス軽減のお店



01 ... 日本の「もったいない」現状

02 ... 当団体の活動実績

03 ... 支援活動の仕組み

04 ... ecoeatの目的

05 ... 事業の継続性

06 ... SDGs

07 ... 最後に

Now MOTTAINAI

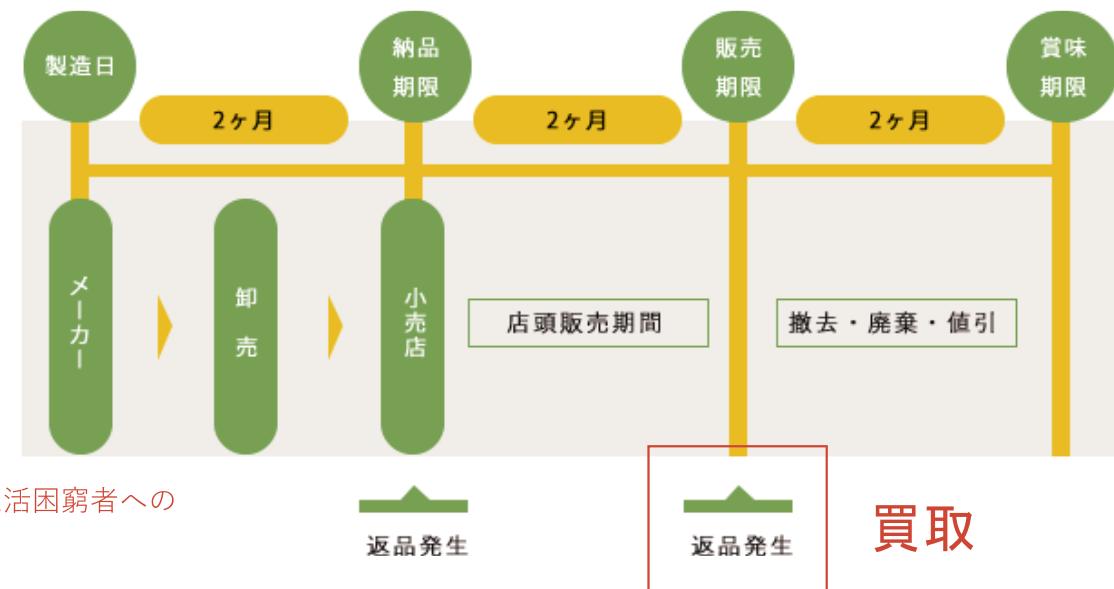
経済の発展とともに増加した食品廃棄物。
その中でも「本来食べられるのに廃棄される食品」を食品ロスと呼び、
日本国内におけるその総数は600万トン(2018年度)と言われています

私たち日本の消費者は、こと食品において世界的に見ても
かなり厳しく品質を求める傾向があります。

それは生食を好んで食べてき歴史が影響していると言われており
美しい文化であるとともに、自分たちに厳しいルールを課して
食品廃棄物を増やしてしまった側面もあるかと思います。

そのルールのひとつに、食品流通の世界には、
3分の1ルールというものがあります。

私たち日本もったいない食品センターは「3分の1ルール」によって
廃棄される予定の食品、あるいは規格に沿わないなど、
様々な理由によって廃棄される可能性の高くなった食品を買い取り、
または貰い受け、我々が廃棄することなく、ecoeatで販売、施設、生活困窮者への
寄贈などにより消費し、食品ロス削減活動をおこなっております。



Our Result

設立5年足らずですでに**500社**を超える企業、団体との取引きを達成し、企業の廃棄に係る損失(廃棄コスト)を抑え、生活困窮者へ安価（無償）で食品を提供することにより、社会に貢献をしております。

廃棄予定となる主な理由：賞味期限切迫・賞味期限切れ・パッケージの損傷・パッケージの変更・規格外品



宮城県防災指導員ボランティア団体ひのきしん様



清教学園高等学校 学生による取材



和歌山大学 学生による取材

支援先は、当団体HP、社会福祉協議会からの依頼により、社会福祉法人が運営する各施設、全国の各家庭（個別）になります。

また、食品ロス削減のための啓発活動として、TV、新聞、学生などの取材にも広く対応しております。

Our Activity

食品ロスと困窮を同時に解決！？

この豊かな日本でも様々な理由で困窮している方がたくさんいらっしゃいます。

1日を学校の給食のみで過ごしている子供たち、
甘い物などめったに口することもできません。

余った食品を足らない人達に渡せば良い！？

誰でも考えつくことですが配送（荷受け）量、
配送費の問題でなかなか上手くはいきません。

そんな問題を私たちが間に立つことにより、解決できつつあると認識しております。

余って困っている食品達を大型トラックなどで一括で受け取り、
全国に広がりつつecoeat店舗をハブ拠点とし、
困窮している人達への支援の範囲が広まっております。



Purpose

1. 啓発活動

ecoeatでは、安全且つ美味しく食べられるのに廃棄される可能性が高い食品を中心に販売しております。

まずは、店舗に来られた一般消費者の方々にこんなにも廃棄される可能性のある食品が多いということを知って頂きます。

さらにスタッフが賞味期限の説明、安全性、美味しさなどの説明を行います。

2. 地域貢献

情報弱者の方や生活困窮者の方が直接足を運んでこられる場所の確保を使命に全国に展開を予定しております。

また、ecoeatはディスカウンターではありません。そのため、他店と競合もしておりません。

結果安く販売している商品が多いのには理由があります。単純に毎日欠かせない食費の負担を減らして頂くためです。

結果良い物を安価で提供することにより地域に貢献しております。

3. 活動費の捻出

食品が余って処分に困っている事業者が多い一方、三食まともに食事を摂れない方がいるこの不条理を何とかしたい。

しかしながら、その凸凹を均すには、物流費を主とした活動資金が必要となります。

当団体はecoeatの売り上げ（剰余金）を使って、

食品ロス削減及び生活困窮者への寄贈にかかる費用を捻出しております。

Sustainable

持続可能な事業形態と、合理的で優しい世界を目指す活動。

NPO法人の運営資金確保は難しく、

ほとんどが寄付金、国、自治体からの助成金等により成り立っています。

それらが無くなり、せっかく良い事をしているのに継続できなくなつた団体をいくつも見てきております。

我々は、寄付金や助成金がなくても継続できる事業形態を作ります。

ecoeatがその役割を担う信じております。

食品があまり困っている事業者様、当団体、ecoeatで購入されるお客様が

WIN × WIN × WINの関係を築けば継続できるとも考えております。

その為に仕入れに関してもNPOなどを理由に善意を強要せず、

価値のある食品に対しては購入することを基本としております。

Sustainable

持続可能な事業形態と、合理的で優しい世界を目指す活動。



補助金や助成金といった公金に依存するのではなく、
自立することで継続的に食品ロスの削減と生活支援を可能とします。

**Target 1.2**

2030年までに、各國定義によるあらゆる次元の貧困状態にある、全ての年齢の男性、女性、子供の割合を半減させる。

食料や衣類など人間らしい生活の必要最低条件の基準が満たされていない絶対的貧困状態にある方の食料品支援に取り組んでいます。

**Target 2.1**

5歳未満の子供の発育阻害や消耗性疾患について国際的に合意されたターゲットを2025年までに達成するなど、2030年までにあらゆる形態の栄養不良を解消し、若年女子、妊婦・授乳婦及び高齢者の栄養ニーズへの対処を行う。

**Target 4.4**

2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。

**Target 12.3**

2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させ、収穫後損失などの生産・サプライチェーンにおける食品ロスを減少させる。

地球環境の悪化を無視した事業活動は今後の拡大を期待できません。地域の学校・学生と連携し、食品ロスに関わる正しい知識の提供に務め、未来の人材育成を支援します。

当団体のコア事業活動であるecoeatの収益を活動原資として生産・サプライチェーンにおける食品ロス減少を図っております。

**Target 3.2**

全ての国が新生児死亡率を少なくとも出生1,000件中12件以下まで減らし、5歳以下死亡率を少なくとも出生1,000件中25件以下まで減らすことをを目指し、2030年までに、新生児及び5歳未満児の予防可能な死亡を根絶する。

国内において総件数の割合は非常に小さいものですが家庭内における虐待死の原因の中でも貧困に起因するものは食料品の支援によって改善されるものと信じて支援しています。

**Target 16.2**

あらゆる場所において、全ての形態の暴力及び暴力に関連する死亡率を大幅に減少させる。

貧困から攻撃性が生まれる一方、助力から笑顔や安堵が生まれます。私たちは公平に話を聞き、公正に手を差し伸べることで暴力が減少すると信じて支援しています。

Message

人生100年時代突入とも言われております。
現在の高齢者は比較的裕福なイメージを持っていらっしゃる方も多いかと存じます。

10年後、20年後はどうでしょうか。
お金に余裕がない高齢者が増えてくるのでは、ないでしょうか。

そんな時代に突入する中、食は生きていく中で最重要問題です。

年々ひどくなる自然災害、いずれ訪れる食料危機対策に向けて、
地球に、人に、優しい第一歩を
皆が踏み出すことを期待しております。

Conditions

以下の品物は引き受けすることができません。

- ・適切に保管されていない品物

事例：重量関係なく山積み（下の商品が破損）

直射日光・雨ざらし

今まで、廃棄していた物を急遽、寄付・寄贈に回す場合などに起こります。

- ・破損品

外箱の凹み、多少の汚れは問題ありませんが密封が保てていない可能性がある破損は引き受けできません。

- ・リコール品

- ・賞味期限が半年以上超過している品物。

半年はひとつの目安です。賞味期間の設定範囲にもより、元々の期間が短い物は、許容できる超過日数も伴って短くなります。

- ・当該食品を通常、製造・販売していた会社からのご依頼ではない場合。